

令和4年度 広島市教員等育成に関する協議会議事要旨

1 開催日時

令和4年12月21日（水） 10:00～11:30

2 開催場所

広島市役所北庁舎 3階 第2・第3会議室

3 出席者

(1) 大学関係者・学校関係者・教育委員会

ト部 匡司	(広島市立大学 国際学部 教授)
佐々木 悠	(エリザベト音楽大学 音楽文化学科 准教授 教養・教職主事)
高西 実	(広島文化学園大学 学芸学部 子ども学科 教授)
立上 良典	(広島工業大学 教職課程センター長)
田中 宏幸	(安田女子大学 文学部 教授 日本文学科長 教職センター長)
胤森 裕暢	(広島経済大学 教養教育部 教授 教職課程委員長)
土屋 英男	(広島国際学院大学 工学部 教授)
寺重 隆視	(広島国際大学 健康科学部 医療栄養学科 教職教室 教授)
西森 章子	(広島修道大学 人文学部 教育学科 教授)
佛圓 弘修	(広島都市学園大学 子ども教育学部 子ども教育学科 教授)
細 恵子	(広島女学院大学 人間生活学部 児童教育学科 准教授)
松浦 武人	(広島大学大学院 人間社会科学研究科 教授)
向居 暁	(県立広島大学 地域創生学部 地域創生学科 教授)
増田 恵利子	(広島市立幼稚園長会 代表(緑井幼稚園長))
有田 光宏	(広島市小学校長会 代表(大林小学校長))
長谷川 洋	(広島市公立中学校長会 代表(牛田中学校長))
柳 義信	(広島市立高等学校長会 代表(美鈴が丘高等学校長))
合田 和広	(広島市立広島特別支援学校長)
松井 勝憲	(教育委員会事務局 教育次長)
加賀谷 哲郎	(教育委員会事務局 総務部長)
川口 潤	(教育委員会事務局 学校教育部長)
中谷 智子	(教育委員会事務局 学校教育部 指導担当部長)
松浦 幸雄	(教育センター 所長)
梶田 英之(欠席)	(比治山大学・比治山大学短期大学部教職指導センター 副センター長)
佐伯 育郎(欠席)	(広島文教大学 教育学部 教授 教職センター長)

(2) 事務局

教職員課長、指導第一課長、指導第二課長、特別支援教育課長、教育センター次長

4 意見聴取及び協議（公開）

(1) 教員の資質能力の向上に関すること

ア 「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」の変更について

イ インクルーシブ教育の実現に向けた授業づくりについて

(2) 教員の養成に係る大学・学校・教育委員会の連携について

教員を目指す学生の意欲を高める取組について

(3) その他

5 傍聴人の人数

0名

6 資料

資料 1 指標新旧対照表

資料 2 インクルーシブ教育の実現に向けた授業づくりについて

資料 3 令和 4 年度教育センターにおける特別支援教育に係る研修

資料 4 令和 4 年度ひろしま未来教師セミナーの実施状況について

資料 5 令和 4 年度「大学生による学校支援活動」の活動状況について

7 議事内容（要旨のみ）

出席者の主な発言は以下のとおり。

【○：構成員（大学関係者・学校関係者） ●：構成員（教育委員会・事務局職員）】

(1) 教員の資質能力の向上に関すること

ア 「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」の変更について

資料 1 に基づき、事務局から説明。

イ インクルーシブ教育の実現に向けた授業づくりについて

資料 2 及び資料 3 に基づき、実施の授業の様子の動画も用いて事務局から説明。

- 心理学の視点からいくつか意見を述べたい。特別支援教育の充実について言われ続けて 20 年、30 年という長い時間が経つが、いまだに浸透していないことが多い。

先程の事務局の説明の中に、視線の移動が困難な児童の事例があった。私は本当に視線の移動が困難なのだろうかという疑問を持った。定かではないが、この児童は、ワーキングメモリーの課題があり情報を一度に処理できないのではないだろうか。このように心理学の理論を応用すると、例えば、次の事例の児童の特徴（最初のほうの単語だけ覚えていること）も初頭効果という始めに記憶したものを覚えやすい記憶の原理で容易に解釈できるし、また、言語や音声の処理はできるがそうでないものの処理は苦手な児童かもしれないなどと解釈することが可能である。もしそうならば、事例だけを検討して帰納的に対応策を検討するよりも、心理学の知見を用いて理論的に、演繹的に対処することが可能となるかもしれない。

教育センターの研修においては、研修を見る限り、先程述べたようなこうした解釈をするような内容の研修がないように思う。もしあるのであれば申し訳ない。

教育には、個別な対応が重要であり、そこには心理学的な視点が必要だが、日本の教育はその部分が遅れていると言われている。そのような中で、学習指導要領の改定等に東京大学の市川教授が携わり、深い学びに関することが入ったとされている。これは、記憶の理論である処理水準効果の話であるが、そういった視点が現場の先生方はごっそりと抜けているのではないだろうか。広島では教員採用試験に教育心理学が取り扱われていないことが有名であるため、私も学生には試験に出ないと知らせているのだが、大事なことから覚えておくように伝えている。

もう一つ述べたいことは、指標についてである。指標を使えるものにするためには、向上（変化）を測定できる内容である必要がある。しかし、「前向きな姿が見られた。」といった表現を向上の指標にすることは心理学ではあり得ない。測定できないものは、実際に教育効果があるかどうか分からない。

指標の話から外れるが、資料 2 の初めに「良い効果をもたらす」と漠然と提示されているが、良い効果とは一体何だろうか。資料 2 については、この他にもお伝えしたいことが多くある。例えば、「やる気がないように見える生徒」の部分については、自己効力感の問題で、おそらく学習性無力感のことだと思う。実際に行っていることは、成功体験を積み、自己効力感を持たせることで学習性無力感を解消するという作業なのだろうが、それは当然のことで、なぜこれまで行えていなかったのか。そもそも、板書を写す作業は必要なのかといったことも考える必要がある。

話が岐にわたり申し訳ないが、できない子どもの背景を考えることは重要であり、市川教授が提唱された認知カウンセリングについて広島大学を中心に我々も研究している。子どもが失敗経験を通して、できないことを最終的には自分でできるようにするといった取組がある。資料 2 の説明では、失敗がマイナスであるように捉えられる内容があった

が、子どもが失敗を有効利用するマインドを持てるようにすることが成長にとっては大事である。

取り留めなく話したが、心理学の視点をもう少し取り入れていただきたいということが私の願いである。

- 大学で学生を見ていて、インクルーシブ教育をある程度受けた者とそうでない者の差が大学の中でも見え始めている。インクルーシブ教育というのは、小中高だけではなく、大学まで一貫性のある指針を持っていただきたい。先ほどの心理学の分野からの御指摘については、私もそのとおりだと思う。既に実態として大学まで影響は及んでいると感じる。

- テーマとして深い内容で、話が尽きないが時間に限りがあるため、ここでこのテーマについての協議は終わりたいと思う。

大学側としてのお話があったが、これから教員を目指す学生にとってどうであるかを考えると、大変に感じておられる部分の話が多いようだった。本日申し上げた内容は、まだ不十分な点もあると思うが、可能な限り研修の機会等を通じて学生に必要な知識やスキルをより身に付けていただけるよう努力している。また、本日の説明にはなかったが、学校現場では、担任だけの負担にならないように、例えば、子どもの状況に応じて学習支援のサポーターやアシスタントを付けること、ICTを活用することなども行っている。若手の先生がそういったことを生かして取り組めるよう今後も努力していきたいと考えている。

(2) 教員の養成に係る大学・学校・教育委員会の連携について

教員を目指す学生の意欲を高める取組について

資料4及び資料5に基づき事務局から説明。

- 来年のひろしま未来教師セミナーのスケジュールについてお聞きしたい。学生も多忙であり、直前の通知では参加できないため、学生への情報提供を早めにしておきたい。

- まだ決定していないが、基本的には今年度と同様のスケジュールで進められるよう検討している。多くの学生に参加していただきたい。

- 大学生による学校支援活動は、多くの学生にとって教職観を育てる良い機会になっており、養成校としても手ごたえを感じている。ひろしま未来教師セミナーについては、段階的に丁寧に実地研修も通して学ばせていただくことができ、大変ありがたい。これに連動する取組として、一般社団法人教育ネットワーク中国でも「これからの教師像」という取組を例年行っている。「これからの教師像」の紹介になるが、広島市立の学校の若手教員に登壇いただいたの講演や、生徒指導課から生徒指導の実践の視点からの講話をしていただくことになっている。この場を借りて厚く御礼申し上げる。

- 教員を目指す学生の意欲を高める取組としては、貴重なセミナーや学校支援活動を設定していただいている。これに高等学校のものも加えていただきたい。本学は高校教諭の免許を取得する学生が多いため、そのような機会があるとありがたい。本学の学生には、特に英語やそれぞれの教科教育法を鍛えているのだが、例えば受験を想定した高等学校での授業の実態をセミナーなどで知り、現場の厳しさを少しでも感じることであれば、緊張感を得られる。ひろしま未来教師セミナーでなくても、高等学校の公開研究会のような場に学生を参加させていただけるとありがたい。

- ひろしま未来教師セミナーの内容については、毎年検討しており、現在も養護教諭や高等学校の教諭を目指す学生も何人か受講している。今後も内容について検討していきたいと考えているが、現在の内容であっても共通して生かせるものになっているので、是非参加していただきたい。

- 高等学校でも公開研究会を実施しているため、そちらに参加していただくことが考えられる。また、セミナーを通して参加していただく方法や学生が個別に参加する方法等も考えられるので、必要に応じて連携させていただきたい。

(3) その他

- 実際に現場ではどのように指標を活用しているか申し上げたい。現在43項目ある指標は教育センターの研修とリンクしており、若手教員の多くは、特に自分の中で一生懸命に力を入れていきたいと考える項目を3つの領域の中から3つ、4つ選択して受講している。教員からの話では、自分に必要となる能力を見つめるよりどころになっているので、幅広い教育活動の中で、困り感を持った時などは大変頼りになっているということである。校長会でも教員の悩みに迫るよりどころとして活用していくとよいのではないかとといった話が出ている。

また、指標の内容を充実していくことについては、今後も引き続き、指針を踏まえることや養成校からの御意見を参考にしていくことが重要であると思う。